

令和7年度 学校評価表

(中間(期末))

学校教育目標	「自分で考え 進んで行動する 木江っ子」	経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「大崎上島町教育推進プラン」を推進し、知・徳・体のバランスのとれた質の高い教育を実現することで、大崎上島の将来を担うたくましく生き抜き子供を育成する。 【ビジョン】(学校の目指す姿)・主体的に行動する子、多様な他者と協働できる、心身ともに健康な子、ふるさと(大崎上島)が大好きな子を育てる学校 ・高い人権意識をもち、主体的・協働的に行動する教職員 ・保護者や地域からこの学校に通わせてよかった、応援してよかったと思わせる学校
--------	----------------------	--------------------	---

評価計画					自己評価					学校運営協議会委員	改善方策
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	評価項目・指標 (効果をみとる目安)	目標値	達成値	達成度	評価	担当部 責任者	結果と課題の分析	コメント	改善方策
確かな学力	児童の主体的な学びを創造する。	◎主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ○児童どうしの対話を中心に考えを深め、課題解決に向けて協働して学習に取り組ませる。	学期毎の児童の自己評価と教師評価	教師85% 児童85%	教師100% 児童86%	教師118% 児童101%	A	教務研究部 (須賀) (望月)	○教師主体の授業ではなく、児童主体の授業スタイルを全教職員で意識して取り組み、定着してきている。 ○児童同士の意見交流はできているが、学習を深めるための対話ができていない。学年が上がるにつれてできつつある。	・児童は、めあてを考えるなど自分たちで授業を進めようという意識で学習していた。 ・アンケートでは、教師と児童の捉え方に差があるが、どういったところに原因があるのだろうか。 ・授業でつぶやきや自分の考えが言えている。複式の授業で隣の学年への配慮があるのかもしれないが、場に応じて自分の考えが大きな声で伝えられるとよい。	・場に応じた声の大きさを意識させ、よくなっているところはしっかりと評価する等、自己肯定感が高まるような声掛けを行う。 ・授業、補習等、時間を保障して、個別最適の指導を行う。
	○各種学力調査の目標値を達成させる。	○少人数指導や複式学級の指導のよさを生かし、児童一人一人にきめ細かい指導を行う。	標準学力調査	全国平均 +5ポイント	1・2年2教科 4～6年3教科 12/13教科 達成 92%	92%	B	教務研究部 (須賀)	○標準学力調査では、2学年の国語以外の平均正答率が、全国平均を5ポイント以上上回っている。 ○学校全体として支援を必要とする児童が多く、学力の学年差や個人差が大きい。授業、補習等、時間を保障して、個別最適の指導が必要である。		
豊かな心・健やかな体	基本的生活習慣を確立する。	◎気持ちのよい挨拶や返事ができる。(社会技能の育成) ◎健康的な生活について理解を深め、実践できる力を育成する。(自己管理能力の育成)	○ソーシャルスキルトレーニング「ほかほか朝会」(毎月1回)を企画し、社会技能の育成に取り組む。 ○基本的な生活習慣定着に向けて、児童一人一人に具体的な目標を設定させ、自己管理ができる児童を育成する。 ○保護者啓発のため、親子で学習する場を設定する。	各回で目標が達成できた児童の割合  年間2回以上	80%  85%  100%	92%  76%  100%	115%  89%  100%	A  B  A	保体生活部 (上川)  保体生活部 (大政)	・参観日での保護者との朝食づくりなど、よい取り組みを町の健康増進部会でも共有したい。 ・ほかほか朝会での取り組みが「大崎上島学」や地域の方との交流で生かされたり、成長が感じられたりしたところを知りたい。	・他校との交流の場では、大きな声ではっきりと伝えることができる場面も見られるようになってきている。今後も児童の実態と照らし合わせつつ、成功体験を重ねながら人との関わり方が学べるような場を仕組んでいく。 ・引き続き、児童には自分の生活の改善点を考えさせる取組を行うとともに、親子で学習できる場を設定していき、少しでも実生活の改善につながる取組を考える。
	体力づくりを推進する。	◎運動に進んで取り組むことができる児童を育成する。	○児童一人一人が具体的な目標を設定し取り組ませることにより、意欲を高める。	目標を達成できた児童の割合	児童85%	89%	104%	A	保体生活部 (上川)	○各学年の実態に合わせて内容を改善し、児童それぞれが目標を立て、達成を目指しやすようにした。 ○体力向上のために全校で取り組める運動を決め、実践していく。 ○体育的行事だけでなく、日常の授業にも目標を設定する機会を増やす。	・走力や握力を向上させるために全校で取り組める運動を決め、実践していく。 ・日常の体育の授業において学年や児童の実態に合わせた目標を設定する機会を増やしていく。
	学校や地域を誇りに思う児童を育成する。	◎「大崎上島学」を推進する。	○ふるさと「大崎上島町」の学習を通して、地域を誇りに思う児童を育成する。 ○地域の人材・自然・文化・伝統などを「島まるごと教材」として教育内容に位置づけ、活動を行う。	・児童の自己評価 ・教師評価	児童90% 教師100%	児童100% 教師100%	児童111% 教師100%	A	教務研究部 (望月)	○毎年内容が異なる新たな教材の発掘を行った。 ○いろいろな方をゲストティーチャーとしてお招きし話を聞いたり、校外学習で見学や交流を行ったりして「大崎上島」の魅力を探ることができた。またK授業で発信することができた。 ○サロンに来ていただいたり出向いたりして交流し、地域とのつながりを感じることができた。 ○高学年においては、児童が課題を見つけ探究していく学習を意識して取り組んだ。	・いろいろな人との交流の中で、関わり方を学んだり、自己肯定感を高めたりしていけるとよい。
開かれた学校づくりに努める。	○地域の方の来校の機会を増やす。	○学校環境の整備など、学校だよりや地域回覧でよびかけ、地域の方と共に活動し、交流の場を作る。	教師評価	教師100%	100%	100%	A	教頭	○後期は、グリーン朝会の実施がなく、交流の場はなかったが、学習発表会を見に来てくださった方から児童の様子や学習のがんばりを知ることができてよかったという声をいただいた。来年度も実施を考えたい。 ○高校生との体育、太鼓の交流学習に引き続き、2月は、音楽の交流学習を実施予定であり、高校生からも刺激をもらっている。 ○年度末に今年度、お世話になった地域の方に手紙でお礼を伝え、これからの交流へとつなげたい。	・引き続き、地域の方に児童や学校のことをより知ってもらえる機会を作り、児童にとっても人との関わりや地域のよさを感じられる場としていきたい。	
業務改善を図る。	○児童と向き合う時間を確保し、長時間勤務の減少を図る。	○業務の進め方の改善を図る。 ○個別業務の精選・省力化の工夫を図る。	教師評価	教師90%	100%	111%	A	教頭	○時間外在校時間が月45時間を超える職員は、10月に1名だった。10月から1月の時間外在校時間の平均は23.0時間で昨年度よりも3時間減っている。各自が退校時刻を意識し、業務内容の優先順位を考え職務に当たっている。 ○「すいすい水曜日」の17時半退校は、前期よりも定着し、実施できる週が多かった。	・今年度の反省をもとに行事や会議など日程に無理がないかどうか見直していく。	

本年度の重点目標については◎印で示す。

【自己評価】  
A: 100≧(目標達成) B: 80≧(ほぼ達成) < 100  
C: 60≧(もう少し) < 80 D: (できていない) < 60